

## 令和3年度 第3回 奈良県公共事業評価監視委員会 議事録

1. 日時 令和3年12月14日(火) 14:00~16:00
2. WEB会議
3. 出席者(敬称略、五十音順)
  - ・ 委員長 多々納 裕一
  - ・ 委員  
大庭 哲治、下村 由加里、中西 麻美、西川 恵造、福井麻起子、松野 裕
  - ・ 奈良県 県土マネジメント部 企画管理室、技術管理課、道路建設課  
地域デザイン推進局 公園緑地課

### 4. 議事

#### (1) 道路事業：王寺道路

##### 1) 前回審議資料の修正報告(道路建設課)

##### 2) 意見

(多々納委員長)

部分供用では混雑部分があり解消されないために総走行経費が減少せず、全線供用することでそこが解消され、マイナス分もあって、より大きな効果が出るということか。

(道路建設課)

そのとおりです。

(多々納委員長)

何か意見はありますか。

(各委員)

ー意見なしー

#### (2) 道路事業：小平尾バイパス

##### 1) 前回審議資料の修正報告(道路建設課)

##### 2) 意見

(多々納委員長)

本事業は費用がかなり増加しているのですが、追加の説明を求めたものだが、各委員から意見はありますか。

(各委員)

ー意見なしー

(多々納委員長)

再評価時の事業費の増加は、新規事業評価時に低い費用にしたのではないかとの疑問を招きかねないと思う。国土交通省では改善の議論をされていると聞きます。奈良県においても可能な限り、過去の事例等から適正な費用を算出されるよう努めていただきたい。(意見)

### (3) 街路事業：城廻り線

#### 1) 再評価に関する説明 (道路建設課)

#### 2) 意見

(多々納委員長)

前回評価時から今回評価時でB/Cは1.1と変わっていない。事業費が1.5倍に増加しているのであれば便益は1.5倍になるものと考えますが、その点を説明してください。

(道路建設課)

便益も事業費と同様に増加しており、理由は2点あります。1点目は交通量推計に使用した道路交通センサスデータについて、前は平成17年のものを使用していましたが、今回は平成22年のものを使用しており、このエリアの発生集中交通量が4%ほど増加しているためです。

2点目は東西方向の道路整備計画に変更が生じているためです。前は城廻り線、大和郡山上三橋線、大和郡山環状線の3つの路線を整備する計画下での便益算定となっていました。しかし、大和郡山上三橋線については、大和郡山市において近鉄郡山駅周辺地区まちづくり基本計画が令和元年に策定され、通過交通等の自動車交通流入を抑制し歩行者を中心とするまちづくりの方針が示されました。また、大和郡山環状線については、踏切道改良促進法に基づき、踏切道を存置し城廻り線へ通行誘導する内容の計画が今年3月に策定されました。これらの経緯から、3路線が整備される計画であったものが城廻り線の1路線のみとなり、同線の整備効果が相対的に大きくなっているためです。

(多々納委員長)

事業費の増加については丁寧に資料に記載されているが、便益の変化についても同様に丁寧に記載した方がよいと考えます。

(大庭委員)

今後の事業費の見通しや、用地買収など課題や懸念事項について説明してください。

(道路建設課)

令和2年から近鉄線直下部分の工事に着手しており、工事は順調に進んでいます。今後はトンネル部、掘割部の工事を進めていきます。先程も説明しましたが、詳細調査により工事費が増額している経緯もあるとおり、今後実際に現地を掘削していくにあたり、想定外の土質状況が判明することによる費用増加の可能性もあると考えています。

また、用地買収の状況については、個人が特定される恐れがあるため詳細な説明は差し控えますが、先程も説明しましたとおり、机上での想定から実際の建物調査に進むことで補償費用の増額が発生している経緯もあります。このような補償調査の結果も踏まえ、しっかりと用地交渉を進め、円滑な事業推進に取り組んでいきたいと考えています。

(多々納委員長)

現在のところ、事業を中断するなどの深刻な事態ではないという理解でいいか。

(道路建設課)

はい。

(多々納委員長)

本件に関しては説明された資料の範囲内で特に大きな問題はないと考える。ただし、便益の部分については補足説明資料を追加していただくという条件をつけ、事業継続は妥当と判断するということでよいか。

(各委員)

－異論無し－

### 3) 意見集約

事業継続を妥当とする。ただし、説明資料について本日の意見を踏まえて修正すること。

## (4) 公園事業：(仮称)まほろば健康パーク機能強化事業

### 1) 第2回公共事業評価監視委員会 修正報告(公園緑地課)

### 2) 意見

(西川委員)

この場所から車で15分ほど行けば、天理駅前にコフフンという施設があります。そこ随分かぶるような気がしますが、どう考えているのか教えてください。もう一つは、川西町ウェルネスタウンと、どういった棲み分けをするのか教えてください。

(公園緑地課)

まほろば健康パークは、指導員を常駐させる、規模が大きい、などの点でコフフンとの違いを出せると考えています。また、川西町のウェルネスタウンについては、具体的な計画はこれからですので、一体利用も含めて今後検討していきます。

(多々納委員長)

もう少し構想や未来像などについて具体的に教えていただけないでしょうか。

(公園緑地課)

健康をテーマに取り扱えるような空間にしたいと考えています。その中で、まほろば健康パークは、子どもをターゲットに絞った展開をできたらと考えています。

(西川委員)

ウェルネスタウンを構想する際には、子どもはまほろば健康パーク、大人はウェルネスタウン、といった具合に、地域として大人も子どももふれあって楽しめるようなことを取り入れてもらえたらありがたいです。

(福井委員)

子どもの利用が年間14万人増えると想定していますが、少子化の影響は考慮されていますか。また、アピールポイントとして指導員にこだわる理由は何ですか。他の施設を参考にしたのですか。

(公園緑地課)

B/Cを出す上では、人口減少を考慮しています。14万人は、過去の実績をふまえ、開園当初の数字を算出したものです。指導員にこだわるのは、子どもの発達段階に応じて少しずつチャレンジなことに取り組んでもらえるような公園にしたいという思いからです。そのためにはどうしても指導員が必要と思っています。

ボーネルンドやミズノといった民間企業の例を参考に、子どもの興味をひきながらどんどん運動やスポーツに興味をもってもらえればと考えています。

(下村委員)

このエリアから少し東に行くと、奈良健康ランドがあって、3世代同時で来場する人がすごく多いらしいです。その点を踏まえて、このまほろば健康パークとウェルネスタウンは、家族として行動する人が多いというイメージでつくってほしいと思うので、年配の方々にも楽しめるような場所にしていただきたいと思います。また、将来的にこの公園が集客できるエリアとなり、宿泊も可能となれば、奈良の経済としてもすごく効果が出ると思うので期待しています。

(公園緑地課)

ご指摘を参考にしたいと思います。今後、民間事業者とも相談していきながら検討していきたいと考えています。

(松野委員)

県外の人をターゲットとするなら宿泊施設は、考えておいた方がいいと思います。

(大庭委員)

子どもたちがメインであるけれど、当然保護者やお年寄りも来場すると思っていて、そういう人

達が利用できる施設、設備がいます。カフェ以外にも、遊具の近くにベンチを一つ設置し、保護者が見守れる環境をつくるというのも併せて考えてほしいと思いました。また、運営には民間も関わることになると思いますが、全体の統一感や景観をどう配慮していくのかは奈良県が率先してやっていかなければいけないと思っています。

(中西委員)

インクルーシブルといった言葉が使われていますが、障害のある方がどれくらい使えるのか具体性がないと思います。もう少し、そのあたりをアピールしてはどうでしょうか。

(公園緑地課)

健常者中心の表現になっていますが、身障者用のプログラムも考える必要があると思っています。資料に掲載しているブランコのように、健常者と身障者、また多世代が同じ場所で過ごせる公園づくりにチャレンジしたいと考えています。

(多々納委員長)

インクルーシブルデザインはプロセスデザインなので、状況の変化にうまく適用したり、利用者のニーズの変化をうまくくみ取ったりできるようにしていただければと思います。

(多々納委員長)

委員会として、いろいろアドバイスがあったとは思いますが、非常に課題があるという議論ではなかったように思います。本日のご説明をもって、事業実施が適当であると判断してよろしいでしょうか。(他の委員からも了承を得ましたので) それではぜひ頑張って事業を推進していただくようお願いいたします。

(公園緑地課)

ありがとうございました。

### 3) 意見集約

新規事業化を妥当とする。